令和7年度入試問題

(学校型推薦型選抜 II) (地域枠学校推薦型選抜) (緊急医師確保対策枠学校推薦型選抜)

小論文(出題意図)(解答例)

<医学部医学科>

問題 1

設問 1

【出題意図】

文章を分析し、重要点を抽出する能力を問う。

【解答例】

①ランダム化比較試験という手法を使うこと。②二重盲検化という手法を用いること。

設問 2

【出題意図】

文章の内容を理解し、論理的に考える能力を問う。

【解答例】

たくさんの項目で統計学的な検定を行い、有意差のある評価項目を引き出すこと。

設問 3

【出題意図】

事実(臨床試験の結果)と筆者の意見(筆者が考える臨床試験の抱える問題点)を区別し、筆者の意見を抽出する能力を問う。また、設問4の解答を構築する基盤を与える。

【解答例】

- ・記憶機能検査が主要評価項目と副次評価項目の双方に登録されている。
- ・抄録の結果には、主要評価項目である記憶機能検査の結果を書くべきである。
- ・層別解析が事前に設定されたものか定かでない。
- ・複数の層別解析を行い、有意差がついたものだけを論文に記載した可能性が否定しきれない。
- ・広告には有意差があった層別解析のグラフを改変し、y軸の最大値を半分にして、両群の差をより強調して見せた。
- ・言語流暢性テストを記憶機能の検査と考えてよいかどうかという点も議論の余地が残る。

設問 4

【出題意図】

医師を目指す者として、昨今の機能性表示食品を巡る事件に問題意識を持つべきである。機能性表示食品に対する問題意識と、解決策を引き出す論理的考察力・思考力を問う。

【解答例】

機能性表示食品の安全性が問題になっている。最近では小林製薬の事件の様に摂取した人が死亡する事態も起きている。このような事態となったのは、機能性を評価する臨床試験や論文の質の低さと、監督する消費者庁のチェックの甘さの2点が原因ではないかと私は考える。

具体的には、これらの臨床試験では、層別解析により有意差のある項目だけを表示し、有意差のない項目は表示しない、更に、グラフの y 軸を改変して差を強調する、といった誇張表示があった。これでは、消費者に都合の悪い情報が表示されず、消費者に無益だけでなく有害な製品が市場に出回る危険すらあり、医師を目指す者として看過できない。

対策としては、科学的なルールに則った臨床試験を義務づける必要があると私は考える。例えば、本文で述べられた様に、最も重要と考える主要評価項目を事前に決めておき、その結果で効果を判断する、といった方法を徹底すべきである。更に、消費者庁のチェック体制もより厳しくする様に、規制を強化する必要がある。

私が医師となれば、機能性表示食品を摂取しているもしくは、摂取を検討している患者を診療する可能性は大きいと思う。その時には機能性の根拠となる臨床試験や論文が科学的なルールに則り誇張表示がないか見極め、患者に適切な助言ができる様にしたい。

問題 2

設問 1

【出題意図】

内容を理解し、論理的に考える能力を問う。

【解答例】

チームやグループ内で個人が罰せられることや当惑を恐れずにリスクを冒すことができるという共通の信念。

設問 2

【出題意図】

内容を理解し、論理的に考える能力を問う。

【解答例】

緊張感のないぬるま湯のような関係性ではなく、健全な意見の衝突ができる環境を指します。

設問 3

【出題意図】

内容を理解し、論理的に考える能力を問う。

【解答例】

医療チームにおいて心理的安全性は、多職種が連携して患者ケアを行うために必要であり、各メンバーが専門性に基づいた意見を自由に述べ、問題点を指摘し合うことで患者の健全な回復に貢献するために重要です。

設問 4

【出題意図】

内容を理解し、論理的に考える能力を問う。

【解答例】

SDM (Shared decision making) とは、医療提供者と患者が協力してケアに関する意思決

定を行うプロセスのことです。

設問 5

【出題意図】

文章を分析、考察し、まとめる能力を問う。

【解答例】

患者・家族の声に耳を傾けることは、医療提供者と患者の間にオープンな対話を築き、患者が安心してケアを受けられるようにするために重要であり、医療事故を減らし、患者の安全を向上させるためにも必要です。

設問 6

【出題意図】

内容を理解し、島根大学医学部附属病院の理念との関与を論理的に考える能力を問う。

【解答例】

島根大学医学部附属病院は「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念としています。この理念を達成するために、「医療における心理的安全性」がどのように関係するかを考察します。

医療における心理的安全性は、チームメンバーが意見やアイデアを自由に表現できる環境を提供することを意味します。特に多職種が連携する医療現場では、各専門家が異なる視点や知識を持ち寄り、最適な治療方針を見つけることが求められます。心理的安全性が確保されることで、メンバー間のコミュニケーションが円滑になり、患者ケアの質が向上します。また、患者自身も治療に積極的に参加することで、治療の効果が高まり、患者満足度も向上します。島根大学医学部附属病院では、地域医療と先進医療の融合を目指す中で、地域住民の声に耳を傾け、患者と医療従事者の間にオープンな対話を築くことが重要です。心理的安全性が保たれた環境でこそ、地域に根ざした高度医療が実現されます。

島根大学医学部附属病院の理念を達成するためには、医療における心理的安全性の確保が不可欠です。これにより、医療従事者間の連携が強化され、患者中心のケアが実現します。地域医療と先進医療の調和を目指すために、心理的安全性を重視した取り組みが必要です。